

各協議会の取組概要

対象地域: 埼玉県

再生課題: 豊かな生態系を育む湿地環境の再生



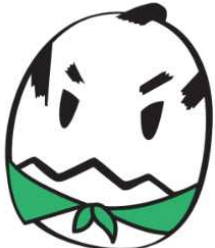
あらかわたりょうえもんしぜんさいせいきょうぎかい

荒川太郎右衛門自然再生協議会

再生
目標

昭和初期までの荒川の流路であった旧流路と周辺において、荒川太郎右衛門地区自然再生地固有の豊かな生態系を育む湿地環境の再生を目指す。

- 事務局
国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所
- 対象地域
埼玉県
(荒川中流域の太郎右衛門橋下流約4km区間)
- 設立日: H15.7
- 構成員数: 38人
- 全体構想作成日: H16.3.31
H18.5.28変更
- 実施計画作成日: H23.1.28
(H27. 1現在)



イメージキャラクター「たろえもん」
埼玉県内の高校生対象の公募で選ばれました。



イベントで実施したハンノキ移植の様子 (H25.11.9)

本地域は、幹線流路延長173km、流域面積2,940km²の荒川の中流域に位置しています。かつて存在していた旧流路を中心とした湿地環境が現在も一部残っている約4km区間において、固有の豊かな生態系を育む湿地環境の再生を目指します。

主に、乾燥化が進む旧流路や周辺の湿地環境の保全・再生、過去に確認された固有かつ多様な生きものが住めるような環境の再生を実施し、多様な水域・水際環境を形成し、周辺地域とのエコジカル・ネットワークの核となるよう、自然環境の質的向上を目指し、将来にわたり治水面からもプラスになるような自然再生事業とします。

自然再生の手法

- 旧流路の保全・再生
- 湿地及び止水環境の拡大
- 河畔林の保全・再生等
- 維持管理・モニタリング・環境学習等



移植したハンノキに飛来した
埼玉県の蝶ミドリシジミ



乾燥していた旧流路を掘削し
水面が再生 (H25.10.28)

対象地域: 北海道

再生課題: 湿原生態系の保全再生、森林の保全再生



くしろしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

釧路湿原自然再生協議会

再生
目標

1980年以前(ラムサール条約登録前)の湿原環境を取り戻す

- 事務局
環境省釧路自然環境事務所
- 対象地域
北海道釧路市、釧路町、標茶町、鶴居村
(釧路湿原国立公園内)
- 設立日: H15.11.15
- 構成員数: 132
- 全体構想作成日: H17.3.31 (H25.3月改正)
- 実施計画作成日:
・H18.1.31(雪裡・幌呂地域/北海道開発局(農業)ほか)
・H18.1.31(南標茶地域/北海道開発局(農業)ほか)
・H18.2.28(達古武地域/環境省)
・H18.8.1(茅沼地区旧川復元/北海道開発局(河川)ほか)
・H18.8.1(久著呂川/北海道開発局(河川)ほか)
・H19.9.6(雷別地区/北海道森林管理局)
・H24.5 (幌呂地区/北海道開発局(河川))
・H25.2 (達古武湖/環境省)
(H28. 9現在)



クロハナシノブ



自然再生の手法

- 森林の保全再生により流域の保水能力、土砂流入防止機能を向上させる
- 湿原周辺の未利用地等で湿原の再生を図る

釧路湿原は、約25,800haに及ぶ我が国最大の湿原であり、広大な集水域を有しており、釧路湿原特有のタンチョウ、キタサンショウウオ、イトウ、カブスゲ群落(ヤチボウズ)などを含む多様で貴重な野生動植物が生息・生育しているほか、保水・浄化機能や遊水池としての洪水調節機能、景観資源・観光資源としての機能等を有しています。

しかし、経済活動の拡大に伴い、湿原面積が著しく減少するとともに流域からの土砂や栄養分の流入によって、湿原生態系の変容が進んでいます。そこで地元住民、NPO、専門家、地方公共団体、国など多様な主体の参画により、湿原の再生に向けた取組が進められています。



地域産種子による苗畑



蛇行河川の復元

対象地域：静岡県

再生課題：湿地生態系の保全・再生 良好な水環境の再生

あさはた ゆう すい ち ほ ぜん かつ よう すい しん きょうぎ かい

麻機遊水地保全活用推進協議会



再生
目標

麻機遊水地に昔から暮らしてきた多様な生きものたちが、遊水地で生息・生育できる環境を再生していくことを目指す。

- 事務局
静岡県静岡土木事務所
静岡市役所
- 対象地域
静岡県静岡市麻機遊水地
(第1工区、第2-1工区、第3工区、第4工区
の総面積約160ha。)
- 設立日：H16.1.29
- 構成員数：84団体、44人(専門家含む)
- 全体構想作成日：H19.3.1
- 実施計画作成日：H20.12.8
(H27. 5現在)



麻機遊水地は静岡扇状地平野の北縁に位置し、標高わずか7m前後の低湿沖積地帯です。全国最大級のミズアオイの自生地として、また、タコノアシなどの絶滅危惧種が多いことから、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選定されています。

しかし、現在は植生遷移や外来種の移入・異常繁殖により在来種や絶滅危惧種などの生息・生育環境は失われ、また、雑排水の流入による水質悪化などに起因して、生態系のバランスが崩れ始めています。

そこで、本協議会では、「生命にぎわうわ(環・和・輪)の湿地麻機」を目指し、麻機の風土に刻まれた人と自然との関係を手がかりに、自然再生に取り組んでいます。

自然再生の手法

- 水路の再生
- 湿地環境の再生
- 多様性のある池沼部の再生
- 外来種の駆除
- 人と自然との良好な関わりづくり



ハス



ミズアオイ



タコノアシ

対象地域：山梨県

再生課題：森林の再生、景観の再生

たまがわけんりゅうしぜんさいせいきょうぎかい

多摩川源流自然再生協議会



再生
目標

多摩川源流域の河川、森林、里山、里地その他の自然環境を保全・再生・創出し、その状態を維持管理することを通して、自然と共生する社会の実現を図る。

- 事務局
山梨県小菅村多摩川源流研究所
- 対象地域
山梨県小菅村の多摩川流域
- 設立日：H16.3.5
- 構成員数：36人
- 全体構想作成日：H20.3.21
- 実施計画作成日：検討中
(H27. 1現在)



本地域は、秩父多摩甲斐国立公園に指定されており、豊かな自然が残されています。しかし、スギやヒノキなどの人工林は管理不足によって、表土の流出などが進んでおり、シカの食害も増加し、国土の保全や生物多様性の確保の見地から重大な問題となっています。

そこで、本協議会では、多摩川の自然環境を再認識するとともに、優れた自然環境や自然と共生する人の営みを保全し、失われた環境は再生し、源流本来の機能を保ち、村人の暮らしと共に持続可能な源流らしい郷を構築するために、流域の様々な分野の主体と流域パートナーシップを確立して連携・協働して取り組んでいます。

自然再生の手法

- 「源流らしさ、小菅らしさ」の里づくり
- 「安全で健康で豊かな」源流の里づくり
- 「自然に学び、自然と共生する」資源循環型の里づくり



村をフィールドに住民が講師となる「多摩川源流大学」の推進



景観ワークショップの様子

対象地域:大阪府

再生課題:里山の再生



このやまほぜんかつようすいしんきょうぎかい 神於山保全活用推進協議会

再生
目標

身近な自然である神於山の自然再生と今日の里山のあり方を考えることを通して、自然環境の大切さを見つめ直します。

- 事務局
大阪府岸和田市
- 対象地域
大阪府岸和田市神於山
(市道福田内畑線と府道岸和田塔原線に
よって区切られた面積約180haの範囲。)
- 設立日: H16.5
- 構成員数: 43人
- 全体構想作成日: H16.10.21
- 実施計画作成日: H17.6.1
(H28. 4現在)



神於山は、植物生態学的にはシイを中心とする緩帯常緑広葉樹林帯に属していますが、伐採、下草刈りなどの人為的な関わりを受けながら植生が変化してきました。

山麓部は果樹園として開墾されましたが、その多くは廃園になり、跡地はクズなどに覆われるとともに、竹林が山麓部はもとより山頂部付近にまで拡大しました。

そこで本協議会として、「森・川・海のつながり」、「人と自然・人と人のつながり」、「里山とまちとのつながり」を理念とし、長期的(100年後)な目標として「里山の再生」を掲げ、地元団体やNPO、企業など多様な主体の連携のもと自然再生を図っています。



神於山遠景

自然再生の手法

- 竹林の拡大防止
- 竹林の適切な管理
- タケの利活用の推進



藤尾池から望む冬の里山



協議会活動(ナルトサワギクの駆除)

対象地域:佐賀県

再生課題:湿原の再生



かしばるしつげんちくしぜんさいせいきょうぎかい 檜原湿原地区自然再生協会

再生
目標

昭和中期頃の湿地植生を再生し、人為活動との適切な関係を再構築

- 事務局
佐賀県有明海再生・自然環境課
- 対象地域
佐賀県唐津市
(佐賀県唐津市七山村池原字檜原に位置し、佐賀県自然環境保全地域特別地区に指定されている8ha。)
- 設立日: H16.7.4
- 構成員数: 36人
- 全体構想作成日: H17.1.26
- 実施計画作成日: H17.3.31
(H27. 1現在)



檜原湿原は面積約120haの湿地で、貴重な湿生植物、昆虫などの宝庫であり、継続的な人為的管理により自然遷移が抑制されてきました。しかし、野焼きやオオミズゴケの除去等の管理行為の中断、ヨシやマコモ他の特定植物の繁茂、周辺域からの土砂の流入、周辺森林の成長に伴う被陰等により、湿地植生の劣化が進行しています。

このため、野焼きの再開・継続のほか悪化している湿地環境を良好な状態へと再生する取組を進めています。

自然再生の手法

- 野焼きの実施
- オオミズゴケ他の特定植物の除去
- 劣化した植生の除去
- 土砂堆積部の浚渫
- 湿地周辺林の伐採と除伐



ハッチョウトンボ



オオミズゴケ堆積による植生の劣化



土砂堆積部分の浚渫



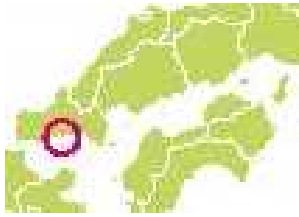
再生事業後に再生した多様な植生



地域住民による保全の取り組み

対象地域：山口県

再生課題：干潟の再生



ふしのがわかこういき・ひがたしぜんさいせいきょうぎかい 榎野川河口域・干潟自然再生協議会

再生 目標

人が適度な働きかけを継続することで自然からの恵みを持続的に享受できる場、「里海」を再生する

- 協議会事務局
山口県自然環境課、山口市環境政策課、他
- 対象地域
山口県山口市
(周防灘の山口湾に流入する榎野川河口干潟等)
- 設立日：H16.8.1
- 構成員数：59人
- 全体構想作成日：H17.3.31
- 実施計画作成日：検討中
(H28.4現在)



榎野川下流域の干潟は、カブトガニをはじめとした全国的にも希少とされる種が数多く生息しており、「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選ばれています。さらに、渡り鳥のクロスロードとなっていることから、全国的にも重要な地域となっています。

しかし、浮泥の流入、富栄養化等によるカキの異常発生、採貝耕耘機会減少による干潟の硬質化、アマモ場の激減など、干潟生態系の改変・改質が生じています。

このため、榎野川河口域・干潟の自然環境を再生し、維持していくための取組を進めています。

自然再生の手法

- カキ殻の粉砕などによる底質環境の改善
- 科学的な分析・評価による干潟への働きかけ
- 再生活動が持続される体制づくり



カブトガニ(幼生)

砂干潟区域での活動



干潟耕耘作業



アマモの花枝採取



アユの産卵場造成

協議会の状況



協議会のワークショップ

対象地域：茨城県

再生課題：湖岸環境の保全・再生及び湖岸景観の再生



かすみがうら たむら ・おきじゆく ・とざき ちく しぜんさいせいきょうぎかい 霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会

再生 目標

多様な動植物が生育・生息し、里と湖の接点を形成する湖岸帯の保全・再生に取り組む

- 事務局
国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所
- 対象地域
茨城県
(霞ヶ浦(西浦)中岸の田村揚排水樋管から戸崎1号排水樋管に至る区間(概ね西浦中岸の延長3.5km)の沿岸域)
- 設立日：H16.10.31
- 構成員数：38人
- 全体構想作成日：H17.11.27
- 実施計画作成日：H18.11.27(A区間)
H19.9.14(B区間)
H27.7.10(C～I区間)
(H27.7現在)



霞ヶ浦は、1960年代の大規模干拓や1970年代の湖岸の整備等により、湖岸・沿岸帯の生物多様性のみならず、その基盤である地形などの自然も大きく損なわれてきました。

そこで、本協議会では、この地域の特色と変遷を踏まえ、自然の力を借りながら変化に富む水辺空間を再生し、かつての霞ヶ浦に普通に見られた動植物を呼び戻し、憩いの場・環境教育の場として役に立つこと、人と自然が共生していくことを願って「多様な動植物が生育・生息し、里と湖の接点を形成する湖岸帯の保全・再生を図る」ことを目標に自然再生の取り組みを行っております。



既設の矢板を一部撤去し、陸地に湖水を引き込み、ワンドを整備しました。(平成19年完成)
現在水際部の植生が繁茂し、環境学習の場として活用されている。

自然再生の手法

- 人と湖のつながりの再生
- 湖岸環境の保全・再生
- 湖岸景観(場)の再生



既設の堤防を陸側に作り直し、湖水を引き込みワンドを整備しました。(平成25年度完成)
今後は水際部の植生繁茂が期待されています。



B地区ワンドは、水生生物調査やボート体験など環境学習の場として利用されている。

対象地域：埼玉県

再生課題：平地林の再生

くぬぎやま ちく しぜんさいせいきょうぎかい

くぬぎ山地区自然再生協議会



再生
目標

高度経済成長期前のかつての武蔵野の平地林のような、人との関わりによって育まれてきた多様な自然環境を再生

- 事務局
埼玉県、川越市、所沢市、狭山市、三芳町
- 対象地域
埼玉県川越市、所沢市、狭山市、三芳町
(埼玉県南部市街地の間に位置する
大規模な平地林約152ha)
- 設立日：H16.11.6
- 構成員数：56人
- 全体構想作成日：H17.3.12
- 実施計画作成日：検討中
(H28. 8現在)



くぬぎ山は、首都圏30km圏内にあり、武蔵野の美しい里山景観の面影を現在に伝える大規模な緑地空間です。

しかし、近年里山における農業的な利用の減少、都市化に伴う土地改変、廃棄物処理施設の乱立など、里山林の適正な管理や周辺環境の悪化が課題となっています。

このことから、①平地林の荒廃を抑制し、豊かな緑と生物の多様性を維持する②平地林の改変を抑制し、武蔵野の風景を将来世代に引き継ぐ③改変施設の移転誘導を計画的に進め、改変地を復元し、良好な平地林を再生する④利活用を図り平地林の新たな価値を創造する、ための取組を進めています。



くぬぎ山を上空から望む

自然再生の手法

- 廃棄物処理施設の撤去
- 実生や根株の移植などによる植生の復元
- 荒廃雑木林の整備



保安全管理活動

対象地域：広島県

再生課題：湿原の再生

やわたしつげんしぜんさいせいきょうぎかい

八幡湿原自然再生協議会



再生
目標

「命の環 つなげる」をキャッチフレーズに、牧草地造成前の昭和30年代前半頃の湿原生態系を再生する

- 事務局
広島県、北広島町
- 対象地域
広島県山県郡北広島町
(西中国山地国定公園)
- 設立日：H16.11.7
- 構成員数：32人
- 全体構想作成日：H18.3.31
- 実施計画作成日：H18.10.30
(H27. 5現在)



本地域は、広島県の北西部に位置し、1,000m級の山に囲まれた標高800mの盆地です。また、ヌマガヤーマアザミ群集に代表される中間湿原が点在し、自生のものとしては貴重なカキツバタが生育しています。

しかし、牧場化に伴う排水施設や道路の整備が原因と思われる湿原の乾燥化により、周辺部からアカマツやイヌツゲ等の木本類が侵入し、希少種の生育環境が悪化しています。このため、自然生態系の保全・再生のための計画を作成、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めています。



ヒメシジミ



カキツバタ

自然再生の手法

- 立木の伐採
- コンクリート水路の撤去
- 自然形態の河川への整備
- 河川の堰上げ
- 導水路の整備



カスミサンショウウオの産卵調査



整備した観察路

対象地域：北海道

再生課題：湿原の再生

上サロベツ自然再生協議会

再生
目標

高層湿原・・・国立公園指定時(昭和49年)の植生やその広がり状況をイメージし、当時の状況を残す箇所を標準とし、これを目標とする
ペンケ沼・・・現況を維持すること(これ以上埋塞が進まない状態)
泥炭採取跡地・・・開水面の閉塞を進め湿原植生の再生・創出を図ること
砂丘林湖沼群・・・生態系を保持するために水位低下を抑制すること

- 事務局
豊富町商工観光課
- 対象地域
北海道天塩郡豊富町、幌延町
(利尻礼文サロベツ国立公園)
- 設立日：H17.1.19
- 構成員数：49
- 全体構想作成日：H18.2.2
- 実施計画作成日：
 - H18.7.13(緩衝帯・沈砂地/北海道開発局(農業)ほか)
 - H21.7.2(環境省)
 - H24.8.7(林野庁)

(H27.1現在)



ツルコケモモ



コモチナガヘビ



サロベツ原野は、その起源が日本海に面した沿岸部の砂丘帯と宗谷丘陵に囲まれた潟湖(古サロベツ湖)にあり、低平地における国内最大の高層湿原となっており、ミズゴケ、ツルコケモモ等が広がりコモチナガヘビも確認されています。

しかし、周辺の土地利用の変化に伴い、湿原において地下水位の低下や乾燥化、地盤沈下が発生し、これにより高層湿原が減少しササやヨシ等が侵入するなどの減少が生じています。

このため、湿原の消失と劣化、農業との両立など課題解決に向けた自然再生の取組を進めています。

自然再生の手法

- 地下水位の低下抑制
- 泥炭採取地の復元
- 農地と湿原の緩衝帯等の整備



水抜き水路の埋め戻し



淡水が回復した落ち沼

対象地域：東京都

再生課題：水環境の再生及び河川生態系の再生

野川第一・第二調節池地区自然再生協議会

再生
目標

昭和30年代前半、対象地域に存在していた「水のある農の風景」を規範とし、当時の風景が持っていた水を中心とした環境システムの再生を目指す。

- 事務局
東京都北多摩南部建設事務所
- 対象地域
東京都小金井市
(野川第一調整池、第二調整池、野川(小金井新橋～二枚橋))
- 設立日：H17.3.28
- 構成員数：36人
- 全体構想作成日：H18.9.13
- 実施計画作成日：H18.10.16(第一次)
H24.11.28(第二次)
(H27.9現在)



自然再生事業区域



田植えの様子

野川は、国分寺市に源を発し、武蔵野台地の南端、国分寺崖線に沿って、小金井市、三鷹市、調布市、狛江市を貫流し、世田谷区で多摩川に合流する延長約20kmの一級河川です。

かつて小金井市の野川沿いは、田んぼが広がり、国分寺崖線の湧水や森林等により湿地や植生帯など多様な自然環境が広がっていました。現状では、沿川の市街化や土地利用の変化により自然環境の多様性は大きく損なわれたといわれています。

そこで、洪水を防ぐ目的で設置した調節池を中心に、田んぼや池、湿地等を再生し、多様な生きものの生息・生育空間や、人と自然とがふれあえる場を創出していきます。

自然再生の手法

- 水のある自然環境の再生
- 市民参加による維持管理
- 自然のふれあい利用



昆虫観察会の様子



市民参加による維持管理

対象地域：宮城県

再生課題：干潟の保全・再生

がもうひがたしぜんさいせいきょうぎかい

蒲生干潟自然再生協議会

再生
目標

生態系の上位である渡り鳥にとって良好な湿地環境の保全と空間の適正利用による環境保全活動・環境教育を行う場および多様な主体が交流し、情報を共有する場の創出



蒲生干潟は、仙台港の建設や河川改修工事によって人為的に形成されたもので、淡水と海水が混じる汽水域となっています。また、国際的にも貴重な渡り鳥の中継地、繁殖地、越冬地であり、特にコクガン越冬地の南限として重要な役割を果たしています。

しかし、平成23年3月の東日本大震災による津波の影響を受け、蒲生干潟の湿地環境は激変しました。このため、渡り鳥を頂点とする生態系にとって良好な自然環境への修復等に向け、どのような取組ができるのか、自然遷移の経過を見ながら、検討を進めることとしています。

自然再生の手法

- 多様な生物を育む干潟の保全・復元
- 湿地を維持する水環境の再生
- 砂浜環境の保全・回復
- 環境保全活動・環境教育の推進および各主体が交流する場の創出

- 事務局
宮城県自然保護課
- 対象地域
宮城県仙台市
(国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区)
- 設立日：H17.6.19
- 構成員数：22人
- 全体構想作成日：H18.9.16
- 実施計画作成日：H20.3.29
(震災後、協議会は開催されていない。)
(H28. 4現在)



コクガン



平成21年3月



平成23年3月12日 国土地理院提供



平成25年8月26日

対象地域：秋田県

再生課題：森林の再生

もりよしさんろくこうげんしぜんさいせいきょうぎかい

森吉山麓高原自然再生協議会

再生
目標

草地造成事業(昭和40年代)以前のブナ林等を再生し、クマゲラの生息に適した環境を拡大する



ブナをはじめとする落葉広葉樹林やクロベ、スギ、キタゴヨウなどの常緑針葉樹林が広がる森吉山麓高原周辺は、本州では数少ないクマゲラの繁殖地となっています。

しかし、昭和40年代から約490haのブナ林が牧草地に改変され、野生動植物の生息・生育域が分断・縮小されました。このため、周辺の森林生態系保護地域や「緑の回廊」と連続する広大な森林を形成し、豊かな自然環境の指標ともいえるクマゲラやそのほかの動物の生息と安定した繁殖に繋げるため、失われたブナを主体とする広葉樹林の再生に向けた取り組みを進めています。

自然再生の手法

- ブナなどの広葉樹の植栽
- 多様な主体の参画による再生の推進

- 協議会事務局
秋田県自然保護課
- 対象地域
秋田県北秋田市
(国指定森吉山鳥獣保護区)
- 設立日：H17.7.19
- 構成員数：15人
- 全体構想作成日：H18.3.31
- 実施計画作成日：
H18.10.20(第1期/秋田県)
H21.4.27(第1期変更)
H23.3.23(第2期/秋田県)
H28.3.18(第3期/秋田県)
(H28. 3現在)



営巣中のクマゲラ



8年経過後の植栽地

対象地域：徳島県

再生課題：サンゴ群集の再生



たけがしまかいいきこうえんしぜんさいせいきょうぎかい

竹ヶ島海域公園自然再生協議会

再生
目標

エダミドリイシが健全な状態で生き続けていける環境を取り戻す

- 協議会事務局
海陽町
- 対象地域
徳島県海部郡海陽町
(室戸阿南海岸国定公園)
- 設立日：H17.9.9
- 構成員数：52人
- 全体構想作成日：H18.3.31
- 実施計画作成日：H23.7.29
(H27. 3現在)



海面に漂うサンゴの卵



卵から育成し、約7年後のエダミドリイシ
(直径約15cm)



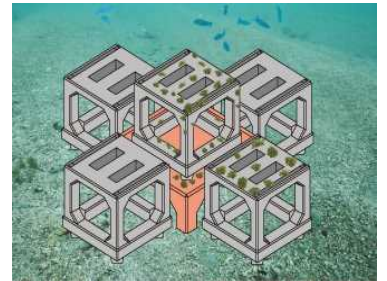
阿波竹ヶ島海域公園は、徳島県と高知県の県境に位置し、黒潮分岐流の影響を受け、透明度が高く、鮮やかな緑色のエダミドリイシの大群集やシコロサンゴなどの生物群集が織りなし、美しい海中景観を形成しています。

しかし、湾入口部への防波堤等の整備により湾内静穏度の向上が図れたものの、外海水との交流量が減少し、透明度が低下しています。

このため、協議会においてやま・かわ・うみのエリアにおいて自然再生活動を進めています。

自然再生の手法

- エダミドリイシの特性把握
- 海域公園周辺の環境改善
- 陸域からの環境負荷の軽減
- 地域の多様な主体の参加と連携による取り組み
- 海域公園と共生する地域漁業の活性化



移植観察フィールドの設置イメージ

対象地域：熊本県

再生課題：二次的草原の再生



あそそうげんさいせいきょうぎかい

阿蘇草原再生協議会

再生
目標

さまざまな主体の協働により、阿蘇の多様性の高い草原生態系が保全され、草原景観が維持されるとともに、それらが継続的に管理されるようにする。

- 事務局
環境省九州地方環境事務所
- 対象地域
熊本県阿蘇郡南阿蘇村、小国町、南小国町、産山村、高森町、阿蘇市
(阿蘇くじゅう国立公園のうちの阿蘇地域内)
- 設立日：H17.12.2
- 構成員数：251(H28.3)
- 全体構想作成日：H19.3.7(第1期)
H26.3(第2期)
- 実施計画作成日：
 - H21. 3. 4(野草地)
 - H25. 3. 12(野草地(2期目))
 - H23. 3. 10(草原湿地)
(H27. 5現在)



オオルリジミ(撮影：寺崎昭典)



ハシシブ



(撮影：大滝典雄)

阿蘇の草原は、東西約18km、南北約25km、周囲100km以上に及ぶ世界最大級のカルデラ地形の内外に広がっています。この草原は人々が利用することによって成立したものであり、人々が手を入れることにより維持され、草原景観と多様な動植物が生息・生育する豊かな草原環境が守られてきました。

しかし、農業形態や生活様式の変化などにより、草原維持のための一連の作業を行うことが困難になり、草原面積の減少や荒廃が目立つようになりました。

このため、長い間草原をうまく利用することにより守られてきた草原環境を再生し、次世代へ引き継ぐための取組を進めています。

自然再生の手法

- 草原維持管理作業の支援
- 放置された草原の管理作業の再開
- 損傷・劣化が進んでいる草原環境の修復



輪地切りの作業



野焼き風景

対象地域：沖縄県

再生課題：サンゴ群集の再生

せきせいしょうこしぜんさいせいきょうぎかい

石西礁湖自然再生協議会

再生
目標

長期的目標：1972年の国立公園指定時の豊かなサンゴ礁生態系を取り戻す
短期的目標：環境負荷をなくし、現状より悪化させない

- 事務局
環境省那覇路自然環境事務所
- 対象地域
沖縄県石垣市、八重山郡竹富町
(西表石垣国立公園内)
- 設立日：H18.2.27
- 構成員数：118
- 全体構想作成日：H19.9.1
- 実施計画作成日：
●H20.6.13(石西礁湖／環境省)
(H28.1現在)



マンタ



カクレクマノミ



石西礁湖は、八重山諸島の石垣島と西表島の間に位置する我が国最大のサンゴ礁海域であり、ダイビング、漁業活動等、多様かつ高度な利用がなされている海域であり、地域経済に対して大きな役割を果たしています。

近年、赤土や未処理の生活排水の流出などによる陸域からの環境負荷、海水温の上昇等によるサンゴの白化現象、大量発生したオニヒトデによる食害等により、サンゴは広範囲に影響を受け、国立公園指定時に比べ大きく衰退しています。

このため、陸域からの環境負荷を軽減し、サンゴ礁生態系の健全性回復を手助けすることを当面の目標とし、サンゴ群集の再生に向けた取組を進めています。

自然再生の手法

- サンゴ群集の修復(サンゴ幼生の着床誘導および移植)
- 陸域からの環境負荷の低減



着床具の設置



赤土流出状況

対象地域：高知県

再生課題：サンゴ群集の再生

たつくししぜんさいせいきょうぎかい

竜串自然再生協議会

再生
目標

近年衰退の著しいサンゴ群集を主体とする海中景観および海域生態系の保全・再生

- 協議会事務局
高知県土佐清水市
- 対象地域
高知県土佐清水市
(足摺宇和海国立公園)
- 設立日：H18.9.9
- 構成員数：16(たつくし☆ネットワーク51)
- 全体構想作成日：H20.3.28
- 実施計画作成日：H22.1.28
(H28.5現在)



エンタクミドリイシ



衰退したサンゴ



自然再生の手法

- 竜串湾内に堆積した土砂の除去
- 河川流域の土砂の発生源対策

竜串湾は、高知県土佐清水市南西部に位置し、温暖な黒潮の影響を受けてイシサンゴ類をはじめ、多くの海中生物が生息しています。中でもシコロサンゴ群集はその規模の大きさから学術的にも高い価値を有しています。

しかし、竜串湾では開発や産業の影響による水質悪化およびサンゴ食害生物の大発生等に加え、平成13年の高知県西南豪雨により河川から大量の土砂が湾内に流入したことで多くのサンゴが死滅しました。そこで、流域全体の視点から、かつての造礁サンゴ類を中心とした海中景観と生態系を取り戻すための取組を進めてきました。

平成26年度には、目標はほぼ達成できたことから、今後は新たな協議会体制において「自然と共生した活力ある地域づくり」や自然資源の利活用を重点をおき、実践していきます。



湾内に流れ込んだ流木



下層植物が発達していないヒノキ林地

対象地域：島根県、鳥取県

再生課題：汽水湖の自然環境、生態系の再生

なかうみしぜんさいせいきょうぎかい

中海自然再生協議会

再生
目標

豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつての中海の自然環境や資源循環を再構築する。



- 事務局
認定NPO法人自然再生センター
- 対象地域
島根県松江市、安来市
鳥取県米子市、境港市
(中海とその流入河川(大橋川を除く。)の全集水域)
- 設立日：H19. 6
- 構成員数：71人
- 全体構想作成日：H20.11.22
- 実施計画作成日：H24.3.10
(H28. 4現在)



中海は、島根県と鳥取県にまたがる我が国で5番目に広い湖で、斐伊川水系の河口部にあり、宍道湖と一連の汽水域を構成しています。

かつては、高い透明度とアマモ・オゴノリ等の藻場が広がる生物が豊かな湖でした。しかし干拓・淡水化事業等の開発、流入する生活排水、農業・畜産・産業排水の増加により、生物がすみにくくなり、地域住民の意識も中海へ向かなくなりました。

そこで、「よみがえれ、豊かで遊べるきれいな中海」を合い言葉に、豊かな汽水湖の環境と生態系、そして心に潤いをもたらすきれいな自然を取り戻し、かつての中海の自然環境や資源循環を再構築することを目標としています。



オゴノリ（海藻）

自然再生の手法

- 海草類の回収及びその利用
- 浚渫窪地の環境修復
- 湖岸域の保全・再生事業



窪地埋戻し事業



中海のオゴノリ刈り体験

対象地域：宮城県

再生課題：湖沼生態系の保全・再生

いずぬま・うちぬましぜんさいせいきょうぎかい

伊豆沼・内沼自然再生協議会

再生
目標

昭和55年7月の洪水被害を受ける以前の頃の生物多様性豊かな自然環境を取り戻す

- 協議会事務局
宮城県自然保護課
- 対象地域
宮城県登米市、栗原市
(国指定伊豆沼鳥獣保護区伊豆沼特別保護区)
- 設立日：H20.9.7
- 構成員数：38人
- 全体構想作成日：H21.10.31
- 実施計画作成日：H22.11.3
(H28. 4現在)



マガン



マガンの飛立ち(冬)

自然再生の手法

- 生物多様性の保全と再生
- 健全な水環境の回復
- 賢明な利用と環境教育の推進

伊豆沼・内沼は、宮城県北部の面積約491haの大小2つの淡水湖沼です。厳冬期でも湖面が全面凍結しないため、マガンやハクチョウ等の渡り鳥にとって重要な越冬地となっており、昭和60年にラムサール条約登録湿地になりました。また、観光だけでなく、かんがい用の貯水や洪水調整の遊水池としても使われ、人々の生活と密接に結びついています。

昭和55年に発生した洪水で、抽水植物や浮葉植物等が長い期間冠水し激減したため、これらの植物に依存するカモ類が減少するなど、沼の景観が一変しました。また、外来魚の食害により、魚類やエビ類も激減しました。このため、渡り鳥を頂点とする生態系にとって良好な自然環境の復元に向け、植物や魚類の保全活動を進めています。



増殖したクロモ



ハス刈り後の状況

対象地域：岩手県

再生課題：水辺及び里地里山の保全再生



くぼかわいーはとーぶしぜんさいせいきょうぎかい 久保川イーハートーブ自然再生協議会

再生 目標

里地里山における侵略的外来種の防除、棚田や雑木林などの手入れを通じて生物多様性を保全し、その重要性を広く発信して地域内外の交流を活性化する。

- 事務局
久保川イーハートーブ自然再生研究所
- 対象地域
岩手県一ノ関市
(一ノ関市久保川流域の羽根橋から上流の立石地域)
- 設立日：H21.5.16
- 構成員数：28人
- 全体構想作成日：H21.5.16
- 実施計画作成日：H21.5.16(ため池)
H22.5.16(広葉樹林)
H28.9.7(耕作放棄地)

(H28. 9現在)



地域に600個点在するため池



当該地域は戦後の拡大造林や土地改良事業による水田整備などを免れてきたところです。しかし近年、水田の乾田化や化学肥料・農薬の使用、侵略的外来種などの影響により、ため池を中心に在来の水生生物が減少し、管理放棄された樹林では間伐や下草刈りが行われず、林床の植生が貧弱化しています。

そこで本協議会では、当該地域の残された生物多様性やそれを支える人の営みを適切に評価するとともに、生物多様性を脅かしている要因については、保全生態学を基礎とした科学的なモニタリングと検討に取り除くことで、生物多様性を再生し、恵み豊かな里地里山の自然を次世代に引き継ぐことを目標に自然再生に取り組んでいます。

自然再生の手法

- 生物相のモニタリング調査
- 侵略的外来種の防除、耕作放棄地の手入れ・ビオトープ造成など
- 調査や防除の結果より手法を模索
- 環境教育を通じた地域内外の交流



蘇ったニッコウキスゲ



自然観察会の様子

対象地域：兵庫県

再生課題：森林の再生、草原の再生



うえやまこうげんしぜんさいせいきょうぎかい

上山高原自然再生協議会

再生 目標

上山高原及び周辺地域において、ススキ草原約45haを維持・整備し、ブナを中心とした落葉広葉樹林の森約313haを再生する。

- 協議会事務局
NPO法人上山高原エコミュージアム
- 対象地域
兵庫県新温泉町
(氷ノ山後山那岐山国定公園)
- 設立日：H22.3.21
- 構成員数：10人
- 全体構想作成日：H22.3.21
- 実施計画作成日：H24.1.13
(H28. 4現在)



扇ノ山山麓のブナ林



自然再生の手法

- ススキ草原の復元
- ブナ林等落葉広葉樹林の復元
- モニタリングの実施

兵庫県新温泉町の南西部に位置する上山高原とその周辺地域は、扇ノ山のブナ林や畑ヶ平高原など、自然性の高い原生的自然とともに、麓の里に住む人々の営みの中で維持されてきた二次的自然があります。森林性の他、草原性の動植物が生育・生息し、絶滅が危惧されているイヌワシやツキノワグマが生息するなど、貴重で多様な生態系を形成しています。

しかし、スギの植林により原生的自然は減少し、人による管理がなされなくなったススキ草原は、面積が極度に減少しており、ブナ林の復元やススキ草原の維持管理手法の確立などの自然再生事業を実施しています。



ススキ草原の火入れ



ブナの植樹作業

対象地域: 福井県

再生課題: 湖沼環境の保全・再生



みかた ごこ しぜんさいせいきょうぎかい 三方五湖自然再生協議会

再生
目標

かつての生きものにぎわいと、人のにぎわいを取り戻すため、先人の知恵と努力に感謝し、湖と人、人と人の関わりを見直しながら、将来にわたって三方五湖の恩恵を受けることができる誇りある地域社会を実現します。

- 事務局
福井県安全環境部自然環境課
- 対象地域
福井県若狭町、美浜町
(三方湖(みかたこ)、水月湖(すいげつこ)、菅湖(すがこ)、久々子湖(くぐしこ)、日向湖(ひるがこ)の五つの湖からなる湖とその周辺地域)
- 設立日: H23.5.1
- 構成員数: 70団体・個人
- 全体構想作成日: H24.3.4
- 実施計画作成日: H25.3.3
(H27. 1現在)



三方五湖は若狭湾国定公園、国の名勝、県の鳥獣保護区に指定され、またラムサール条約湿地に登録された貴重な湖です。それぞれの湖で塩分濃度や水深が異なり、多様な環境に応じて魚類など多くの生物が生息しています。

一方で、水質汚濁や生き物のすみかとなる植生帯の激減、オオクチバスやブルーギルなど外来生物の増加など、かつての豊かな三方五湖の自然環境は、急速に損なわれつつあります。

そこで本協議会では、「湖と里をとりまく自然と人のつながりの再生」をビジョンとして、自然再生に取り組んでいます。



たたき網漁(三方湖)

自然再生の手法

- 多様な魚介類がすみ、水鳥が羽ばたく水辺の再生と保全
- 「三方五湖」の自然を活かした地域のにぎわいの再生
- 生活の中で受け継がれてきた湖の文化の伝承



しじみ採り(久々子湖)



田んぼの生き物調査

対象地域: 群馬県

再生課題: 人と沼の絆の創造と再生



たたらぬま・じょうぬましぜんさいせいきょうぎかい 多々良沼・城沼自然再生協議会

再生
目標

「人と沼の絆の創造と再生」をスローガンに、過去の環境の再生をイメージし、「21世紀にふさわしい沼本来の姿」を目指す。

- 事務局
群馬県県土整備部館林土木事務所
- 対象地域
群馬県館林市、邑楽町
(館林市と邑楽町にまたがる約80haの多々良沼と館林市の約50haの城沼とその周辺地域。)
- 設立日: H22.4.10
- 構成員数: 54人
- 全体構想作成日: H23.5.13
- 実施計画作成日: H26.1.26
(H28. 4現在)



本地域の邑楽・館林地域は、低地の湿原が数多く残存し、湖沼やヨシ原等を中心に、地域特有の生態系を維持してきました。

しかし、近年の開発等により、水鳥の飛来種の単純化や、ブラックバスなど外来魚による被害増加、水生植物群落の変化、水質の悪化などが問題となっており、県や市・町、地域の様々な市民団体等は、これらの課題に対応すべく取り組みを進めてきました。

これらの活動を更に促進し、有機的に結びつけ、真に実効性のあるものに進化させるために、協議会を設立し、豊かな自然を保全・再生・創出・維持管理していくためにはどういった取り組みが必要なのかを関係者全員で考え、共に実践していきます。

自然再生の手法

- 沼本来の姿を保全・再生する
- 新たなる人々との関わりを創出する
- 地域に生きる証と誇りを、後世に引き継ぐ



多々良沼のタラカンガレイ



多々良沼のヨシ焼き



城沼のハス群落

対象地域：大阪府

再生課題：里地里山の自然環境、生態系の再生



たか やす しぜんさいせいきょうぎかい

高安自然再生協議会

再生 目標

絶滅危惧種（ⅠA類）のニッポンバラタナゴを含む地域固有の生物多様性を維持することで、人と自然が共生して暮らせる持続可能な地域づくりを目指す。

- 事務局
大阪経済法科大学地域総合研究所
- 対象地域
大阪府八尾市
(八尾市高安地域の大阪経済法科大学周辺や中地区、南地区、神宮寺、久宝寺緑地、恩智川とそれに流れ込む小河川。)
- 設立日：H26.1
- 構成員数：33人
- 全体構想作成日：検討中
- 実施計画作成日：検討中
(H28. 9現在)



本地域は、古くから谷水と湧水を導水・貯水したため池を利用した農業が営まれ、今でも数多くのため池が残されています。ため池では水質維持のために行われてきた「ドビ流し」によりニッポンバラタナゴに代表される生物多様性豊かな環境が形成・維持されてきました。

しかし、本地域では農業の担い手の減少と高齢化が進み、人手不足により「ドビ流し」が行われなくなってきたため池が多くあります。

そこで、本協議会では、多様な人々による協働により、ドビ流しの実施などにより、ヒトの営みと自然が共生できるための里地里山の再生方法や水辺の伝統的水管理手法等を踏まえた水循環・物質循環の再構築を目指します。



ニッポンバラタナゴ

自然再生の手法

- 高安山の森林整備
- 里地里山の環境保全と再生
- 恩智川とその流域の水質調査
- 自然環境学習と地域と都市の交流



高安山の森林整備



小学生とのため池調査